

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.8
Q1 室内環境								3.4
1 音環境				3.2	0.15	-	-	3.2
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策				-	-	-	-	
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板を採用		4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境				2.8	0.35	-	-	2.8
2.1 室温制御				2.6	0.50	-	-	
1 室温				2.0	0.38	3.0	-	
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能		窓:U=3.33W/m ² K, SC=0.54、外壁:U=0.52 W/m ² K		3.0	0.25	3.0	-	
4 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				4.0	0.25	-	-	4.0
3.1 昼光利用				3.8	0.30	-	-	
1 昼光率				3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口				-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		トップライト・縦型ルーバーにより積極的に昼光利用。		5.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御		ブラインドに底を組み合わせてグレアを制御。		4.0	1.00	3.0	-	
3 映り込み対策				-	-	-	-	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御		1作業単位で照明制御でき、かつ、末端等で調整できる。		5.0	0.25	3.0	-	
4 空気環境				3.9	0.25	-	-	3.9
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		F をほぼ全面的に使用。		4.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-	
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	
4.2 換気				3.6	0.30	-	-	
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/10以上。		5.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-	
4 給気計画				-	-	-	-	
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		ビル全体が禁煙。		5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	4.1
1 機能性				4.3	0.40	-	-	4.3
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		OAフロアによりレイアウト変更に対応可能、OA機器用コンセント容量が50VA/m ² 以上。		5.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画		バリアフリー法誘導基準を満足している		4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性				4.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		事務室の天井高2.7m以上、かつ窓が設置されている。		4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース、喫煙コーナー、自動販売機等の設置がされている。		5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		コンセプトに基づく内装計画がなされている。		5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理				4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		内壁面は防汚性の高い建材を使用。		5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		フロア毎に掃除用流しを設置している。		4.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				4.5	0.31	-	-	4.5
2.1 耐震・免震				5.0	0.48	-	-	
1 耐震性		建築基準法に定められた50%増の耐震性を有する。		5.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		免震装置を導入している。		5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				4.0	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		品格法で等級3相当。		4.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		磁器質タイル+花崗岩		5.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:タイルカーペット、壁:石膏ボード、EP-G、天井:岩綿吸音板		5.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		ガルバリウムダクト使用。		5.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性			4.4	0.19			
1	空調・換気設備	熱源の分散化。	5.0	0.20			
2	給排水・衛生設備	節水型機器を使用、可能な限り配管の系統を区分。	5.0	0.20			
3	電気設備	非常用発電設備を備えている、電源設備・精密機械の地下空間への設置を避けている。	5.0	0.20			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5	通信・情報設備	通信手段の多様化、精密機械の地下空間への設置を避けている。	4.0	0.20			
3 対応性・更新性			3.5	0.29			3.5
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31			
1	階高のゆとり	階高4.07m	5.0	0.60	3.0		
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.10069	4.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性			3.2	0.38			
1	空調配管の更新性		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性		3.0	0.17			
3	電気配線の更新性		3.0	0.11			
4	通信配線の更新性	仕上げ材を痛める事なく通信配線の更新・修繕ができる。	5.0	0.11			
5	設備機器の更新性		3.0	0.22			
6	バックアップスペース		3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.31			4.0
1 生物環境の保全と創出		生物環境の保全と創設、適切な緑地づくりを行っている。	4.0	0.30			4.0
2 まちなみ・景観への配慮		周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させている。	4.0	0.40			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30			4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	空間提供・施設機能提供により地域へ貢献している。	5.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上	風の通り道、緑地の確保。	3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-			4.0
LR1 エネルギー			-	0.40			4.5
1 建物の熱負荷抑制		PAL低減率=27.0%	4.6	0.27			4.6
2 自然エネルギー利用			4.0	0.21			4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	トップライトに拠る自然採光、エコボイドによる換気システム。	4.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電を利用したシステムを計画。	4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化		高効率設備(太陽光発電設備・LED照明)の設置。ERR=37.2%。	5.0	0.31			5.0
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		ERR=37.2%	5.0				
集合住宅の評価							
4 効率的運用			4.5	0.21			4.5
4.1	モニタリング	主要な設備システムの性能評価を行う。	5.0	0.50			
4.2	運用管理体制	運用、維持、保全の基本方針を計画している。	4.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル			-	0.30			3.7
1 水資源保護			4.0	0.15			4.0
1.1	節水	節水型機器を使用。	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			4.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用をしている。	4.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無	熱エネルギーを利用した井水を雑排水に利用	4.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.63			3.6
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生骨材の路盤利用、ビニル床材、木材・プラスチック再生複合材	5.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材が容易に分別可能。OAフロアを採用	4.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.22			4.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用	カーペット、壁紙用接着剤、シーリング材、壁塗装に使用。	4.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68			
1	消火剤	不活性ガス消火剤を使用。	4.0	0.33			
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWPが低い発泡剤を用いた断熱材を使用。	5.0	0.33			
3	冷媒		3.0	0.33			
LR3 敷地外環境			-	0.30			3.7
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率72%	4.1	0.33			4.1
2 地域環境への配慮			3.7	0.33			3.7
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		風向等を把握、LR1のスコア4.5	4.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25			
1	雨水排水負荷低減	指導された規模を満たし、かつそれ以上の雨水処理対策を実施。	4.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25			
3	交通負荷抑制	建物利用者の適切な量の自転車置場の確保、適切な量の駐車スペースの確保。	5.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミの分別可能なスペースの確保。	4.0	0.25			
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1	騒音		3.0	0.50			
2	振動		3.0	0.50			
3	悪臭		-	-			
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			3.3	0.40			
1	風害の抑制		3.0	0.70			
2	砂塵の抑制		1.0	-			
3	日照障害の抑制	日影規制に対して1ランク上の基準を満たしている。	4.0	0.30			
3.3 光害の抑制			3.7	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行っていない。	4.0	0.70			
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			